C 4　過疎地域における児童の教育・福祉・保健に対する協同体制の確立を目的とした基礎研究(秋田調査第11報)：学級通信を手がかりとした子どもの生活サイクルの検討，大妻女大家政　平井信義・千明春代子・長坂陽雄・松本舟昭　○大場幸夫

＜目的＞　日常的な生活記録として示唆に富む，ある学級通信の内容を分析整理し，子どもの生活サイクルについて検討する。また学級通信発刊の及ぼす影響について考察する。

＜方法＞　昭和53年から2年間にわたり休日をのぞいて毎日発刊された学級通信「やまびこ」(T町立K小学校M学級)を資料とした内容分析。また昭和56年10月，発行者のM教諭に面接し発刊にまつわる体験や見解を得た。

＜結果＞　分析の結果，記事内容は　1.児童の学校生活，2.学習指導　3.感想文，4.トピックス，5.家族・知人の便り，に大別された。そして各々の中で，子どもの生活現実にふれる観点からみたカテゴリーとして　1.季節感，2.遊び，3.労働・手伝い，4.生活の中の行事の4点に区分された。このように具体的記事を分類整理し，生活サイクルとして以下のように6つの時期に区分できた。1.雪中生活（12月～3月），2.出稼ぎから戻る・活気がもどる（4月），3.田の仕事・手伝い・戸外遊び（5月～6月），4.地縁・血縁の交流（7月～8月），5.秋祭り・収穫・手伝い・戸外遊び（9月～10月），6.冬構え・あわただしく出稼ぎへ（11月）。また，学級通信の発刊による影響は，具体的には　1.保護者とくに母親に「書くこと」への興味や意欲がかりたてられたこと，2.保護者同士あるいは保護者と教師間の交流の契機になったこと，3.他の土地の人々との交流もでき，知人を得て視野を広げることが可能になったこと。4.子どもたちが自然を享受しつつ生活している様子があきらかにされたこと。

本研究は科学研究費補助を受け，本年は生活文化に焦点をあてて検討をすすめており，58年度に過去10年の研究過程を報告書にまとめる作業に入る。